



代表取締役

野田 宜志

神奈川県出身。学業修了後は証券会社や出版社を経て、先代である父親が創業した『日成工業』に2001年に入社。現場で一から技術と知識を培った。2014年に代替わり後は機械化・省力化に注力し、優れた技術力とアイデアで国内有数の町工場に成長させた。

COMPANY PROFILE

各種試作品・精密機械加工

有限会社 日成工業

神奈川県川崎市中原区宮内 2-24-1

URL : <http://nissei-kogyo.world.coccan.jp>

医療機器や光学機器などの精密機械部品——。それらの切削加工を手掛けているのが『日成工業』だ。あえて少数精鋭を貫くことで高い技術力を誇る同社には、難しい加工に頭を抱える同業者が日々相談に訪れる。日本屈指の大手メーカーだけでなく、海外からも引き合いがある同社を、野村将希氏が訪問。野田社長にインタビューを行い、その躍進の秘訣に迫った。

代替わり後は測定器の導入に注力 事業を急成長させる

——『日成工業』さんは業界でも大きな注目を集めておられる企業だと伺いました。まずは御社の沿革と事業内容を簡単にお聞かせいただけますか。

当社は私が4歳だった1978年に、先代である父が神奈川県高津区末長で創業しました。その後、2007年に工場を今の場所に移転。2014年に代替わりを果たして私が現職に就任しました。当社では特に精密切削加工を得意としていて、医療機器や光学機器のトップメーカー様から依頼を受けて、金属や樹脂といった精密部品を試作、加工・製造しています。2020年で創業から42年になります。

——専門的なお仕事ですね。トップメーカーとも取引されているとのことですが、御社の強みはこういった点にありますか。

一番の強みは技術力ですね。当社には従業員が5名しかいません。それも父や妻といった身内ばかりで、他人にはタッチさせません。そうして技術や情報が外部に漏れないようにしているんです。——ほう。技術を守るために、あえて少数精鋭を貫いておられる、と。

ええ。ただ、少人数でも大きな仕事ができるように様々な体制を整えていますから、稼働率は常に高水準を維持しています。当社の規模で国内の大手企業と取引できるのは稀で、それを可能にしているのは他社にはできない微細な難加工が得意だからです。たとえば、大手メーカーが今までになかった

画期的な製品を生み出す場合、まずは設計士が設計図を描きますが、それが実現可能かはまだ分かりません。その段階で当社に設計図が持ち込まれ、当社が試作を行います。まずはつくれるか、つくれるならば納期と価格を決めますが、つれない場合はどうすれば実現可能か、当社がご提案します。その流れで大手企業とも直接取引させていただいています。——「ここなら実現してくれるはずだ」というメーカーからの絶大な信頼が窺えますし、その期待に必ず応えておられる御社もすごいです。どうしてそんなことが可能なのでしょうか。

私は精密切削加工をする上で最も重要なのは、加工機への投資ではなく、加工の精



機械の動きを説明する野田社長と、ゲストの野村将希氏の対談の様子

追隨を許さぬ技術力とアイデアで 地域の町工場から世界を目指す

Column

優れた技術力で高精度な切削加工を続ける『日成工業』。自動化や省力化に力を入れるようになったのは、二代目・野田社長の代からだ。特に精度向上のために計測機器類の重要性に気づいたことは、大きな転機だと語る。その気づきのきっかけを社長はこう語る。「入社当時、ものづくりの素人だったからこそ、気づけたんです」と。たとえば、プラスチック一つをとっても、その原料である樹脂は収縮する。だからこそ「ものづくりの現場では誤差はあって当然」。入社したばかりのころ、社長はそう教わった。しかし素人だった社長はそれに素直に納得がいかなかったという。「もっと正確につくれるのでは？」と考え、そこから限界に挑戦していった。勉強するにつれて、誤差をなくすためには正確な計測が不可欠であり、さらに誤差を補正するソフトが必要だと気づき、それらの導入につながった。異業種からの転身をハンデとせず、むしろ勝機に変えたのは、社長の努力の賜物と言える。



世界最高峰の技術で より多くの人々を魅了する企業へ

——とても革新的な事業運営に取り組まれていることが窺えます。

ものづくり業界ではまだまだ当社のような企業は少ないですから、こうした点で差別化を図り生き残っていきたいですね。これまで何度か新聞でも取り上げていただいたんですが、代替わり後からより一層、複合加工・微細加工・寸法公差の限界を目指して挑戦を続けてきたことで、2014年には「川崎のものづくりブランド認定技術」を受賞、さらに2019年には「神奈川県優良小規模企業者」に認定され、神奈川県知事から表彰されました。また、これに留まらず当社では10年後を見据えて、世界のメーカーとも直接取引したいと考えているんですよ。特に今はヨーロッパをターゲットに動いており、先日、ドイツとフランスの展示会に出展しました。そちらで「こんな加工ができるのか!」と高い評価をいただいて手応えを感じましたし、自信にもつながりました。

——ぜひ頑張ってください。ありがとうございます。当社のような町工場でも、大企業、そして海外と渡り

合えるということを証明したいですね。ですからあくまでも会社の規模はコンパクトに。理想としては繁盛している小さなラーメン屋でしょうか(笑)。お客様の胃袋を掴めば、小さくてもきちんと利益は出せますよね。優れた技術力を強みに、当社にしかできない仕事で、必要とされる企業であり続けます。

(取材/2019年12月)



After the Interview

「数量の少ないもの、形状の複雑なもの、寸法公差の細かいもの、加工難な材料などの依頼にも多く応えておられる『日成工業』さんは、業界内で“加工の駆け込み寺”とも呼ばれているそうです。とてつもない技術力をお持ちだからこそその称号ですよ。ぜひその優れた技術力で、多くのメーカーを支え、これからも日本のものづくり業界を牽引していただきたいと思います」 野村 将希・談